

## 第1回 箕面市小中一貫教育推進計画検討会議 記録

### 【日時】

令和5年(2023年)1月13日(金) 16時00分～17時00分

### 【会場】

箕面市役所本館2階 特別会議室

### 【出席者】

各構成員等

### 【議事概要】

#### ●教育長から構成員への挨拶

この計画検討会議では、全ての子どもたちが小中一貫教育のメリットを享受できるよう、施設一体型でも校区連携型でも、オール箕面市で小中一貫教育を進められる計画の策定について検討していただきたいと思っている。そのためにあらゆる選択肢を排除せず議論していただきたい。

#### ●箕面市小中一貫教育推進計画の作成の目的について

今回の計画策定の目的や、これまでの本市の取り組みについて説明。

#### ●構成員からの主なご意見

- ・ 施設一体型小中一貫校は、6年生から7年生(中学1年生)へ上がるときにメリットが大きい。中学校に上がっても小学校の先生が同じ学校にいて安心して通うことができているように感じる。課題としては、中学校には定期考査があるなどの違いがあり、小学校中学校でお互いに気を遣う必要があること。また、大規模校ではグラウンドや体育館などの使用に関しては配慮が必要となることも課題。
- ・ 小学校で学校に行きづらい思いをしていた児童も、中学校進学時にフレッシュスタートできることがある。
- ・ 小学校6年生は最高学年としての自覚を持ちやすい。ただ、施設一体型小中一貫校でも、6年生が最高学年としての自覚が無いかというところではない。その上、施設一体型小中一貫校は小学生が9年生(中学3年生)までの見通しを持つことができるというプラスの面もある。施設一体型小中一貫校の7年生(中学校1年生)でも、7年生になったタイミングで中学生の雰囲気が出ると改まる感じのいい緊張感を感じることもある。
- ・ 中学校では、同じ校区の小学校で発生した課題等は情報共有されるが、「この小学校の、この学年の子たちが、この取り組みでこんな成長をした」などのプラスの情報まではなかなか入ってこない。校務分掌として小中一貫教育推進担当があったとし

でも、授業をしている教員が担当している現状では難しい。第三者評価にあるように、小中一貫教育推進を担うコーディネーターの配置が必要だと思った。

- ・ 学校現場としては、授業以外にも様々な業務があるなかで、小中一貫教育を進めていくことが難しいというのが現状だと思う。まずは、小中一貫教育は今どこまでできているのかを知り、その上で、なかなか進んでいない部分もあると思うので、その課題を改善するための必要な仕掛け、工夫、きっかけについて議論していければと思っている。